

みずくらいど

校長 加藤雅弘

けっこうすぐ！？ 高校入試

校長先生

今年から新学習指導要領完全実施。「何のために学ぶのか」にも取り組んでいきます。

5月に、上級学校見学会に行ってきました。生徒の意識が変わり、真剣に考えるようになりました。

2年担任

昨年度
3年担任

自ら「自分に合っているから」と、通信制や定時制などを、進学先に選ぶ生徒が現れました。

上記は昨夜、私が参加した「加賀中学校の開かれた学校づくり協議会」で報告された内容です。

皿沼・加賀は、足立区のモデル地区として平成23年～25年、小中連携の先鞭をつけた学校です。実は私も当時モデル校の一つであった千寿常東小学校の副校長として千寿桜堤中学校との連携目的・方法・内容の在り方について模索しておりました。また、他県の連携校の視察で、皿沼・加賀の先生方とご一緒したことも懐かしく思い起こされました。この度、皿沼小の校長として加賀中の協議会に参加したことは、大変強い縁を感じるどころです。

さて、加賀中学校の協議会で報告された中で印象に残った言葉が上記です。森田校長先生の「中学校でも『何のために学ぶのか』に取り組んでいく」ことを伺い、このことの大切さを小中連携の視点からも考えていこうと思いました。

2年学年主任の先生からは、今年の5月に行われた、上級学校（高等学校）見学会の報告がありました。コロナ対策でなかなか希望の見学先に行けなかったようですが、生徒の意識が大きく変わり、入試に向けて真剣に取り組み始めたそうです。

昨年度3年学年主任の先生からは、進学実績の報告がありました。全員が進学したこと、及び自ら通信制や定時制を選ぶ生徒が現れたことが報告されました。特に、「自分はコミュニケーションが苦手だから通信制を選んだ」というように自らの特性や現状に合わせて、主体的に判断していたことが印象に残りました。

高校入試というと、すごく先のことというイメージがありましたが、2年生の5月に見学があるということを聞くと、そんな先の話ではありません。さらには、自らの学習状況を把握して、最適な進学先を選ぶ場面もその1年後に控えているわけです。低学年にとってまだ先ですが、高学年にとっては「けっこうすぐ」の話です。低学年はまだ難しいと思いますが、高学年は、今から少しずつでも、自らの学習状況を把握し、自分に合った学習内容や方法を考えていくことの大切さに気付いてほしいと改めて感じました。